

【事業名】 亀山里山公園を活用した里山の生物多様性保全推進事業 【三重県亀山市】 【団体名】 亀山里山公園みちくさ管理運営協議会

令和6年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10-6

事業の背景・目的

亀山市では耕作放棄の進行により、里山における生物多様性や絶滅危惧種の状況が悪化している。特に、カワバタモロコやヤリタナゴといった淡水魚については、水路やため池の荒廃により生息地が激減し、市域で絶滅するリスクが高まっている。このため、亀山市が所有する亀山里山公園にて域外保全を行いつつ、普及啓発を実施することとした。亀山里山公園には里山の生態系が残されており自然共生サイトにも認定されているものの、施設整備から18年が経過し、園内の歩道等の劣化が進んでおり、来園者数減少による情報発信力も低下している。このため本事業では、絶滅危惧種の保全とともに園内維持管理、普及啓発活動の推進を行う。



亀山里山公園内の様子

事業の内容

ア. 絶滅危惧種保全事業

●カワバタモロコ移植のため、園内5か所の池でアメリカザリガニ駆除を目的に、5月に池干しを実施した（うち1池は既に定着していたことから一時的に個体を避難）6月にはカワバタモロコを放流し、夏～秋の調査で定着を確認した。

●ヤリタナゴ定着へ向け、産卵器質マツカサガイが定着できる環境を整備し放流した。マツカサガイは生存できたがシジミ類が急増したため、マツカサガイを一時的に回収した。

●夏期の暑さで在来系統フジバカマに病気等不調があった。3月の株分時、病気抑制のため消石灰・木酢液を散布。

●その他、近隣の大規模工事に伴う湿地性植物の園内移植について協議し、事業主体へ提言した。



イ. 園内動植物の維持及び保全促進事業

●基本方針である園内動植物へ配慮を徹底し、年間を通して除草剤・農薬を使用せず除草を実施する等、直営による維持管理を行った。

●経年劣化した園内歩道を補修するとともに、工事による抜本的更新を34mの延長で実施した。（更新率10%→27%）

●イノシシによる園内の掘起しが著しく、水路や歩道が荒廃し大雨で決壊したため、これに対する土留修繕と捕獲罠設置を実施した。

●外部専門家とも連携し、令和7年度以降の園内生物相調査の予備調査に着手した。これにより得られた植物の知見は、名札の整備に活用した。



ウ. 普及啓発事業

●園内の動植物に係る情報発信を強化し、「今の季節に見られる花」等の掲示を年間を通して実施した。園内の植物生育場所における名札の更新も実施した。

●カワバタモロコやヤリタナゴ等の園内で保全している絶滅危惧種を中心に、生き物の生体展示を実施した。また、外来生物に係る情報発信のため、アメリカザリガニとミシシippアカミミガメの展示も実施した。

●里山塾、ザリガニ釣り大会、クリスマスリースづくり体験、フォトコンテスト等、園内を活用したイベントを実施した。しかしながら、コロナ禍後の来園者減少が続いている。



得られた成果

本事業を行うことで得られた成果について、目標と現状値は右図の通りである。カワバタモロコの保全と園内歩道の更新は順調であり、ヤリタナゴの保全については、得られた知見に基づき令和7年度に移殖を実施予定である。年間来園者については、減少が続いているため、今後も本事業を継続し、情報発信や利用継続に取り組む。

これ以外にも、本事業を推進することで、動植物の生息場所である亀山里山公園の園内維持管理が促進された。そして、そうした動植物に係る知見の蓄積に向けた予備調査を実施することができた。

数値目標	現状値		目標値(令和7年度末)
	応募時	1年目(令和6年度)	
園内でカワバタモロコとヤリタナゴの繁殖が確認されている地点数	カワバタモロコ：1地点 ヤリタナゴ：0地点	カワバタモロコ：5地点 ヤリタナゴ：0地点	カワバタモロコ：5地点 ヤリタナゴ：1地点
園内の歩道の更新率	10%（延長195m中19m）	27%（延長195m中53m）	35%（延長195m中68m） (令和7年度末)
年間来園者数	8,000名/年	7,385名/年	10,000名/年(令和7年度末)